

音楽劇 秋に咲く桜のような (スタミナや&イツツフォーリーズ)

言わせて! 今日の芝居 五十字劇評 No.24

【三〇代】
▼とても楽しめました。美奈代さんのファンです。一度つらい現実を味わったら、そりゃあ夢の一つ二つ、見たくもなりますよ! たぶん一三年くらい前に見たら、ここまで共感できなかつたな、と。自分も変化を恐れる、田舎のオバサンになったんだなあ。
(女性)

【六〇代】
▼笑えて泣けて、ほっとした。「しまいをきちんとしないと前に進めない」、集中して観劇!
(女性)

▼今回の舞台は、テーマが良かった。何かを「もう一度やり直したい」という想い。夫婦の事であれ、商店街の復活であれ、「もう一度やり直したい」という想いは至るところにあるはず。大切なのは、やり直すのに遅すぎることはないという事。それから、印象に残ったシーンは2つ。ひとつは、守男が妻の律子に企んだウエディングドレスを着せるというサプライズ。「可愛い顔が涙で、台無しになっちゃうじゃない!」と言う律子の照れのセリフは秀逸。もうひとつは、最後の出演者全員によるプラスバンド演奏。「やり直す」というテーマ

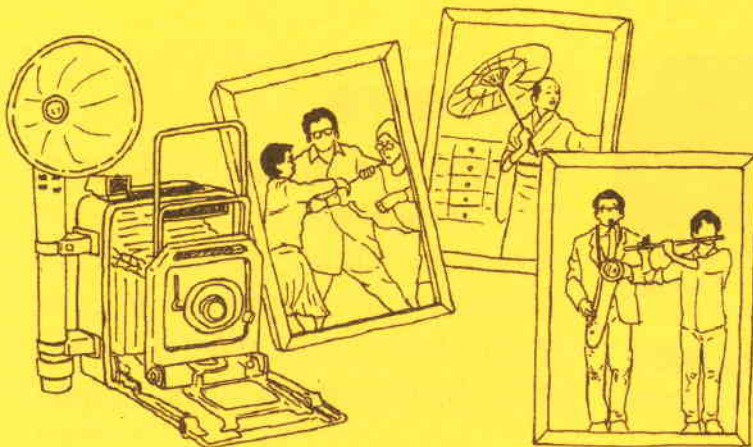
マが具体的に表現されているようで心地よかった。
(男性)

▼気持ちがあたたくなくなりました。困難はあっても、今自分たちでできることがある。あきらめずにやっけて行く。プラスバンドの行進に元気が出ました。
(性別不詳)

▼社会問題にもなっている「シャッター街」が生み出している。社会との関係から断ち切られて、人間は生きていけない。しかし、いつの間にか周りから人も、店も消えて、気がついたら孤立している。決して大げさではない。都会、地方を問わずコミュニケーションが失われつつある。成長優先のひびみではないのか。見直さないと手遅れになる。長寿

社会を素直に喜べないのとても悲しい。
(男性)

▼小さなエピソード集のような。芝居とは、そういうもの。ある場での互いの関係性の会話で劇・物語ができる。
(女性)





▼わが街も至る所がシャッター通り商店街になり、これからどう街おこしをしていくのか？ヒントがあつたかな？お芝居は人間味あふれるホットする良いものでした。プラスバンドの演奏が一所懸命でした。

(性別不詳)

▼大変良かったです。皆さん本当に歌が上手でおどろきました。楽しいひと時をありがとうございました。

(男性)

▼最近の日本国内どこにでもあるお芝居でしたが、何かほのぼのとちよつと悲しくもあり、笑・泣きました。俳優のみなさんの声がすてきでした、特に歌声は最高でした。

(女性)

▼歌がよかった。公会堂も捨てたもんじゃないと思つた。楽器の演奏もこの芝居のため特訓を重ねたとか。すぐく上手とは言えないが、一生懸命さが伝わってきて、それがこの芝居にピッタリ。

(男性)

▼地方衰退と、それを何とかしたいと考える人たちの思いや行動を音楽劇として、

楽しく観れました。

(性別不詳)

【七〇代】

▼今はあちこちにあるシャッター通り。時宜になつたテーマで芝居の展開に意外性あり歌あり器楽ありで良かった。

(女性)

【年齢・性別不詳】

大変面白かった。人は厳しい中にもやさしさがあるという楽しい劇でした。

編集スタッフから

芝居には多種多様な楽しみ方があると思います。いろいろな人のいるいな人生を、圧倒的な臨場感の中で追体験できる。そして、共感するだけではなく、ひよつとすると観た人の明日からの考え方・生き方がほんの少し変わるかもしれない。芝居には、そんな力があると思います。みなさんの芝居を観ての溢れる想いを、ぜひ劇評集に投稿してください。お待ちしております。



50字劇評集No.23
2017年7月例会



50字劇評集No.22
2017年5月例会



50字劇評集No.21
2017年2月例会

劇評のバックナンバーが見られます！

旭川市民劇場のホームページ [50字劇評集] では、2013年10月例会「殿様と私」のNo.1からご覧いただけます。

50字劇評集

50字劇評は、会員が観劇したお芝居について「自由に語る場」として作成しています。例会日に配布される「事務局だより」の原稿用紙に記入して事務局に提出いただくか、FAX、メールでも受け付けています。(旭川市民劇場ホームページから)